

かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.12 No.4



河北潟の活動について発表する高橋 久理事

全国の湖沼活動団体と交流 ～平成18年度いきづく湖沼ふれあいモデル事業発表会～

全国9つの湖沼を対象に実施されてきた環境省の「平成18年度いきづく湖沼ふれあいモデル事業」の成果発表会が、3月20日に環境省第4会議室において開催されました。河北潟湖沼研究所もこの発表会に参加し、17年の希少植物保全プロジェクトと18年の舟入川保全プロジェクトの成果発表をおこないました。その他の参加団体は、北海道の財団法人自然公園財団、宮城県のNPO法人環境生態工学研究所、茨城県のNPO法人宍塚の自然と歴史の会および同県NPO法人アサザ基金、滋賀県の財団法人

人淡海環境保全財団と同県NPO法人びわこ豊穰の郷、岡山県環境保全事業団、島根県のNPO法人まちづくりネットワーク島根でした。

1団体10分間の短い発表時間でしたが、河北潟の水辺環境の問題点や住民らによる活動の進展状況を、全国の活動団体へ発信することができました。発表会後の情報交換会では、各地の取り組みの悩みや環境行政への要望など、ざっくばらんでありながらも、たいへん貴重な意見交換がおこなわれました。



第4回 アサザ



アサザは水辺に生育する浮葉植物の一種です。浮葉植物とはスイレンのように水底から葉柄を延ばして水面に葉を浮かべる水草のことです。水辺を象徴する植物として取り上げられる機会の多いアサザですが、河北潟でも、潟端にアサザピオトープができたり、血ノ川に群落が目立って殖えたりしたことで、地域の人たちの関心も高まっています。

石川県河北郡誌には、河北潟に「黄色の花を著くる蓮を生ずる」と書かれています。この書物の中では、オニバスの河北潟での呼称である「蛇蓮」についての説明として書かれています。オニバスは赤紫色の花をつけるので、昔の河北潟の湖岸には、オニバスだけでなく黄色い花をつけるアサザかコウホネがたくさん自生していたのだと思われます。ところが、おそらく干拓を前後して湖岸からは消えてしまい、いくつかの細い水路のみに細々と生き残っていたようです。

現在、血ノ川に大きな群落は数年前に突然出現しました。その前年にヘドロが除去され河口に排水ポンプが設置されたため、川の底床や水の流れが変化したことが関係しているようです。しかし、この場所を除けば、現在の河北潟周辺に所々に小規模の群落が点在するだけで、潟本体にはアサザは生育していません。農業水路の改修にともなって消滅したところ、他の植物に押されてなくなってしまったところなどもみられます。

今から数年前に、当時東大院生の上杉龍土さんが全国のアサザのDNAを調査するなかで、河北潟の何地点かのアサザも調べられましたが、最終的な結果としては、河北潟のアサザは全て同じクローンであるということでした。つまり、河北潟のアサザは毎年種子から発芽しているのではなく、越冬して生き残った株が殖えているだけであるということです。

アサザの花には、雌しべが短く雄しべが長い短花柱花と、雌しべが長く雄しべが短い長花柱花の2つのタイプがあり、新しい種子をつけるためには、この両方の花が必要といわれています。ところが河北潟地域では今のところ短花柱花しか見つかっていません。河北潟地域のアサザが自らは種子を付ける能力をもっていないとしたら、今後何らかの原因で冬芽が越冬できなかった場合や、夏の間群落が枯れてしまったりした場合、埋土種子が存在しないため、新たな発芽が期待できず、消滅する可能性が高いことが考えられます。今のところ、河北潟のアサザが種子繁殖をすることは難しく、将来にわたる保全を考えたときには、何らかの対策が必要です。(文 高橋 久)

河北潟干拓地でみつかった生物～農地・水・農村環境保全向上活動

河北潟干拓地は農水省の「農地・水・農村環境保全向上活動」の平成18年度のモデル地区となっており、これまで干拓地の農地の整備事業、美化活動や草刈り、環境保全活動などさまざまな活動が繰り広げられてきました。河北潟湖沼研究所もこの活動の担い手である「グリーンアース河北潟」のメンバーとして、干拓地の排水路の生物調査をおこないました。

調査は全部で3回おこないました。中央幹線排水路および支線排水路に沿って歩きながら植生の生育状況を地図に記録するとともに、たも網等により水生動物を捕獲し、地点毎の出現状況を記録しました。

幹線排水路には、ミクリやエビモといった石川県の絶滅危惧植物や、クサヨシ、ヒメガマ、ヒシなどが確認されました。支線排水路には数種類の魚類が生息していることがわかりました。とくにトウヨシノボリでは4つの支線排水

路で生息が確認されました。支線排水路の水質は概ね良好で、排水路であっても、良好な動植物の生息環境として機能しうることがわかりました。

幹線排水路のコンクリート護岸部分にタヌキのため糞場が2箇所で見つかりました。複数のタヌキが生息し、幹線排水路がタヌキの移動経路になっているものと思われます。

両生類、爬虫類では、アズマヒキガエル、ミシシippアカミミガメなど9種類が確認されました。幹線排水路で、ミシシippアカミミガメとスッポンが確認され、支線排水路ではミシシippアカミミガメ、アズマヒキガエル、トノサマガエル、ウシガエルが確認されました。しかし、水路の側面の護岸が高いため、一度落ちたらなかなか這い上がることができない点が問題です。

確認種		確認された排水路no.															合計
科名	和名	9	10	11	16	24	25	26	27	28	29	30	31	32	32-3	中央	
マキガイ綱(腹足綱)																	
	タニシ																4
	カワニナ																1
	サカマキガイ																2
	オカモノアラガイ																1
ヒル綱																	
	ヒルド																1
甲殻綱																	
	ミズムシ																1
	キタヨコエビ																4
	ヌマエビ																4
	アメリカザリガニ																4
昆蟲綱																	
	イトトンボ																1
	アメンボ																5
																	1
																	3
	マツモムシ																1
	ユスリカ																1
	ミスアブ																1
	ゲンゴロウ																1
硬骨魚綱																	
	コイ																1
																	2
	メダカ																3
	ハゼ																4
	タイワンドジョウ																1
	-																1
両生綱																	
	ヒキガエル																2
	アカガエル																1
																	1
爬虫綱																	
	イシガメ																2
	スッポン																1
	カナヘビ																1
	ヘビ																1
		2	8	6	2	5	5	6	2	0	8	1	3	1	4	4	

河北潟市民学級～フィンランドVTTルートコネン氏を招いて

3月10日(土)午後5時より県女性センター2Fの会議室にて、フィンランドVTTのヨルマ・ルートコネン(Jorma Rytoknen)氏とのセミナーを開催しました。フィンランドで実践されている、さまざまな環境技術が紹介され、活発な討論がおこなわれました。

フィンランドVTTは、研究者・技術者3000人を抱える北欧最大の研究・開発拠点で、現在民営化されていますが、非営利の組織です。ヨルマ氏はそのVice President(副社長)です。ルートコネン氏は、この20年間、主としてバルト海域の船の安全航行と船に由来する環境汚染に関係した仕事をしています。バルト海は最奥部にロシアの工業地帯を抱えるため、貨物船やタンカーの航行量が「地球全体」の約50%程度あるといわれるほどで、小さな事故が頻繁に発生しています。この間、バルト海対岸のエストニアやロシアとの関係を重視した対策を進めており、油だけではなく、危険物質を積載したタンカー航行を監視するためのAIS(Automatic Identification System)などの開発運用をVTTが中心となって始めています。

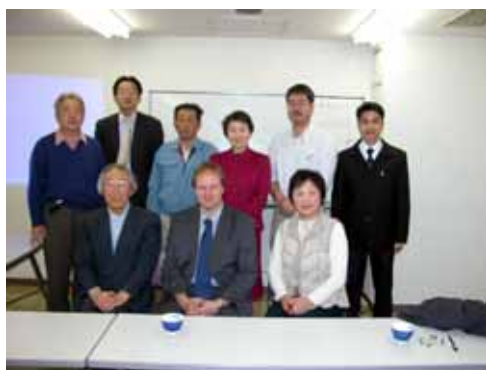
彼らの持つ技術として、注目に値するのは「低温環境技術」があります。セミナー会場で参加者からの質問にもありましたが、フィンランド湾などに設置された洋上風車は、冬季海面が凍りその氷が異動する際に支柱に当たり砕け振動を起こします。その振動対策が日本の地震対策とほとんど同じことやゴミのコンポスト化などの非常に関連な気候でも有効な技術開発をしなければならない、などです。

フィンランドというと「遠い国」という感じですが、実は日本からヨーロッパへ行く場合、



ロシアを除くと「西側の国」としては一番近い国です。また、日本からは昨年からはFinn Airの直行便がヘルシンキと成田・中部空港を結んでいます。安いチケットを探すと6万円台からあります。

このセミナーは、当研究所理事の沢野伸浩氏が、ルートコネン氏を招待されたことにより実現したものです。



お知らせ

第54回河北潟自然観察会

2007年6月3日(日)9:00～

金沢市こなん水辺公園集合

野鳥や水辺の生きもの、植物など、専門家も参加する内容の濃い観察会です。どなたでも参加できます。

河北潟クリーン作戦

2007年6月10日(日)9:00-10:00

内灘橋(大橋の下の橋)南詰集合

編集後記

能登半島地震で被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。一刻も早く復旧されることを願います。N)

「かほくがた」

VOL.12 NO.4

2007年3月28日発行

発行所 河北潟湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北潟湖沼研究所金沢事務局内

TEL:076-261-6951 FAX:076-265-3435